

# 大谷學報

第 二 十 二 卷 第 一 號

昭和四十二年十月十日發行

曇鸞大師の教學管見

源 廣 宣 (一)

無着造・解深密經疏に就て

西 尾 京 雄 (二)

——特にその第一品——

遼代の邑會に就て

野 上 俊 靜 (三)

辯才大師元淨の傳並に淨土教

春 日 禮 智 (六)

「滅罪劫數義」の本文及其解説

戸 松 憲 千 代 (七)

住田・林兩先生を偲ぶ……………(101)

住田先生御終焉の記

稻 葉 圓 成

恩師住田先生を懷ふ

加 藤 智 學

人間林五邦氏

日 野 環

林先生の學風

舟 橋 一 哉

新刊紹介(三) 研究室彙報(五) 寄贈交換圖書雜誌目  
録(四) 會計報告(四)

大 谷 大 學

大 谷 學 會

## 大谷學會々々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛教會、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學教職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。  
一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名  
二、理事 二名  
三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。  
一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補助ス。

三、委員ハ庶務、編纂、會計ノ事務ヲ分擔ス。

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。  
一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則 一、本會ハ佛教研究會ヲ繼承ス。  
二、本會ハ本學ニ於ケル佛教學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

## 大谷學會役員

會長	大須賀秀道
理事	朽木 廣覺 阿部 現亮 安井 廣度 德重 淺吉 正木 淨教 上村 幸次
編纂委員	河野 雲集 鈴木 弘 大庭米治郎 雨宮 尙治 河野 雲集
會計委員	高濱 哲雄 河野 雲集 鈴木 弘 大庭米治郎 雨宮 尙治 河野 雲集
	山口 益 横川 顯正 野上 俊靜

## 編輯後記

○建設の年昭和第十四春を迎へると共に本誌も巻齡二十年を重ねる。廣く明治文化に貢獻した「無盡燈」の後を承けて、大正九年「佛教研究」が發刊され昭和三年「大谷學報」と改題、今日に及んでゐる。その間幾多の光榮と艱難とを経験した。顧みて感慨の念深きを覺える。

○昭和十年八月、本學圖書館主催の九州地方訪書旅行に依つて隆寬・滅罪劫數義が發見され、ながく本學に藏されることゝなつた。本號にその本文校訂と解説とを掲載し得たことは誇るに足ると思ふ。因に別に此の本文校訂のみの抜刷若干部を作製用意した。御希望の向は實費送料拾錢(切手にて)を添へて本學圖書館宛申込まれたい。

○後ればせながら本號は住田・林先生の追悼號とし、些か兩先生の御遺徳を偲びまつる事とした。それぞれ感銘の深い追悼文を寄せられし諸先生並に精細な年譜著述目録を作製せられし小串・佐々木二氏に深く感謝する。

○前號に添へた第十九卷總目録は印刷所との連絡の行違ひから用紙小口を改めることが能きなかつた。會員諸賢の内、製本される向は總目録を切り取らずに附することを爲さずそのまゝ合綴されたい。そのため生ずる不體裁は一に編輯者の不敏に由る。まことに申譯けない。(河野記)

## 大谷學報

行發回四年

月十月七月四月一月一

### 廣告料

表紙裏	普通頁	參拾圓	拾七圓
		一頁	半頁
		貳拾圓	拾貳圓

會費  
定一部賣  
年額 金參圓(但前金送料共)  
普通號 金八拾錢(送料六錢)  
特輯號 隨宜申シ受ク(送料六錢)

昭和十四年二月五日印刷  
昭和十四年二月十日發行

(第二十卷・第一號)

### 不許複製轉載

編輯者 大谷學會  
右代表者 高濱哲雄  
印刷者 須磨勤兵衛  
印刷所 大谷大學出版部  
京都市北小路通新町西入  
京都市烏丸頭六大學内

### 發行所

京都市烏丸頭  
大谷大學内

大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番  
振替大阪六七二八五番